令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及推進事業

NFTE 世界青年起業家チャレンジ 2025 視察に関する調査報告書

2026 年 1 月

学校法人 YIC 学院

目次

Ⅰ．視察の概要 3
1 視察目的 3
2 視察実施概要 3
Ⅱ．視察内容 3
視察対象の情報 3
今回視察したプログラムの概要 5
プログラムの詳細 5
NFTE ファイナリストが教える４つのヒント 21
1．10 代が挑むのは、些細な問題ではなく食糧、水、健康という世界的危機 21
2．最も「ローテク」なアイデアが優勝。そこには、市場の本質を突く教訓がある。 22
3．起業家の「個人的な物語」こそが、最強の武器になる。 23
4．素晴らしいアイデアだけでは不十分。 24
5．教育的インパクト：学生へのキャリア形成やマインドセットに与える影響 24
Ⅲ．視察の成果 26
１．ネットワークの開拓 26
２．YIC 学院のビジョンとの親和性 27
３．今後の検討事項 27
４．外部連携・参加コンテスト詳細 28
５．NFTE カリキュラム展開へのロードマップ 30
６．まとめ 30

Ⅰ. 視察の概要

1 視察目的

米国ニューヨークで開催される「NFTE 世界青年起業家チャレンジ 2025」への視察を通じて、米国のアントレプレナーシップ教育の実態を調査し、YIC 情報ビジネス専門学校で開発中のアントレプレナーシップ教育プログラムの改善・充実を図るため、専門的な視点から調査報告書を作成することを目的とする。

2 視察実施概要

実施期間：2025 年 11 月 17 日（月）～11 月 20 日（木）

・訪問国・地域：米国・ニューヨーク

・視察先：World Youth Entrepreneurship Challenge (WYEC)
Network for Teaching Entrepreneurship (NFTE) Headquarter

・視察者：学校法人 YIC 学院 理事長
学校法人 YIC 学院 統括部長
学校法人 YIC 学院 経営戦略部門 地域連携事業室室長
株式会社キャリアリンク　プロジェクト統括マネージャー
＊株式会社キャリアリンクは、訪問先である教育 NPO のグローバルパートナーであり、グローバルなキャリア教育関連のコンサルティング・コーディネートを行っている立場で同行

Ⅱ. 視察内容

視察対象の情報

団体情報

・正式名称:　Network for Teaching Entrepreneurship(NFTE)

・設立年:　1987 年

・設立者:　Steve Mariotti
元ニューヨーク市の公立学校で教師を務めたのち低所得地域の若者に起業家教育を届ける目的で NFTE を創設

・本拠地: 120 Wall Street, 18th Floor, New York, NY 10005, 米国

・組織形態: 非営利団体
・現在の CEO： J.D. LaRock
・ミッション： 「すべての若者にアントレプレナーシップ教育の力を届け、それぞれの望む未来を切り拓く力を持てるようにする」（報告者訳）
・公式 URL: https://nfte.com/
NFTE の提供するプログラム形態
・学校内教育課程内授業（in-school）
・放課後プログラム／地域団体との連携（out-of-school）
・サマーキャンプ形式（BizCamps）
・オンライン／ハイブリッド形式
・その他 大学・青年向けプログラム
NFTE の提供するプログラムに共通するポリシー
・単にビジネス手法を教えるのではなく、マインドセットを育てる
・教室での講義だけでなく、実践（ビジネスアイデアの立案・検証・ピッチ)、メンターやコミュニティとの協働、実際のビジネス/就労を通じた学びを組み込む、実践型教育（project-based learning)であるエ）実績
・設立以来、世界中で 200 万人以上の学生に何らかのプログラムを提供
・卒業生(Alumni)の 80%が大学学位取得や専門資格の取得/取得中で、25%が一度は実際にビジネスを立ち上げ、多くがシリアル起業家として活躍している
・日本国内では、2021 年度より株式会社キャリアリンクをパートナーとし、2024 年までの 4 年間、広島県教育委員会が全県立商業高校、一部専門高校、総合高校にて実施した
オ）組織構成
・教育者（教師)、カリキュラム開発者、プログラムマネージャー、就労支援専門家など、多様な専門性を持つスタッフが在籍する
・ボード（理事会）や地域リーダー、企業・コミュニティリーダー、有識者など、ビジネス／教育／地域をつなぐ多様なステークホルダーが参画している
カ）資金・支援体制寄付（個人寄付)、企業や財団からの支援、パートナー団体との協働を通じたカリキュラム提供・コンサルティング費など、多様な資金調達資源を持つ。卒業生や教育者向けには、設立者の名前を冠した Steve Mariotti Legacy Fund を通じた資金援助やサポートも行っている

今回視察したプログラムの概要

プログラム名称

正式名称: World Youth　Entrepreneurship Challenge (WYEC) 2025

プログラム実施目的

・若者に国境を越えたアントレプレナー教育の機会を提供すること

・社会課題の解決に挑む若者を発掘、支援すること

・アントレプレナーマインドセット (Entrepreneurial Mindset) を育成すること

・マインドセットにリンクする問題発見力、実行力、創造性、適応力、コミュニケーションなど、未来のキャリアに不可欠なスキルの獲得を促すこと

・グローバルネットワークの構築を促すこと

ウ) プログラム概要

・主催団体：Network for Teaching Entrepreneurship (NFTE)

・対象者：世界各国の NFTE 参加学生およびパートナー団体から選抜された 15～22 歳の若者

・開催形式：3 日間の対面プログラム（ワークショップ、コーチング、ネットワーキング、最終ピッチコンテスト）

・開催場所：　18 日、19 日および 20 日午前　UBS Conference Centre

20 日午後（決勝）Delegate's Dining Room, United Nations

・参加国・人数（2025 年実績）：13 か国、計 34 名の学生が参加

・公式 URL：https://nfte.com/carla-mcdonnell-of-foroige-ireland-winsnfte-world-youth-entrepreneurship-challenge/

プログラムの詳細

3 日間は、①学び (Learning) → ②コーチング (Coaching) → ③ピッチ (Challenge) と段階的構成で設計され、一過性のビジネス・コンペティションイベントに終わらない工夫がなされている

2025 年度の内容は以下の通り：

日付	主要テーマ	主な実施内容
17 日	到着・オリエンテーション	各国代表団の到着、登録、歓迎夕食。 イベント趣旨説明および国際参加者同士の初期交流。
18 日	① 学びの日（Learning） パートナーセッション	参加者の学びのためのセッション、グローバルイノベーションネットワーク（GIN）との連携で、先輩起業家や、ＡＩの専門家、金融の専門家などのレクチャーを聞き、ワークショップを体験。 ・会場：UBS Conference Centre
19 日	② コーチングの日 （Coaching） 市内視察	各チームが専門メンターから最終コーチングを受け、自分のピッチの内容を改善する。 ・会場：UBS Conference Centr 午後はニューヨーク市内視察
20 日	③ チャレンジの日 （Challenge） ピッチ（準決勝～決勝）	準決勝ピッチの実施、審査結果発表 ・会場：UBS Conference Centre 決勝ピッチ、エキシビジョン、セレモニー ・会場：Delegate’s Dining Room, United Nations
21 日	帰国	各国代表団の帰国

各日のプログラムのハイライトをまとめた：

ア）①学びの日（Learning）

会場は NFTE のスポンサーでもある UBS（スイスを拠点とする多国籍投資銀行および金融サービス企業）の Madison Avenue に位置するオフィス。

ホテルから地下鉄と徒歩で移動。グローバル企業の荘厳なエントランスに圧倒される一同。「一流のビジネスの場」を会場にする演出も、参加する学生にとってインパクトが大きい。




初日は、お互いを知るための交流を目的としたワークショップや、NFTE ならではのゲストを迎えた充実のレクチャーなど、各国の代表者たちの知的好奇心や探究心を刺激するインプットとアウトプットが詰め込まれた一日であった。

会場到着後、朝食を共に取りながら交流を深める学生たち。各国のチームにとどまることなく、各テーブルが多国籍。英語でコミュニケーションをとる。今回、通訳が帯同したのはイスラエルチームのみ。







Photos by Joseph Spiteri Photography　　＊上記写真のみ、報告者による撮影

NFTE と UBS の挨拶に続き、ピッチバトルと称したワークショップ（オリジナルのレストランを企画する）を混合チームで実施。

その後、若手起業家の Ethan Kamat 氏と、その父で医師の Dr. Vinay 氏を迎えたレクチャーが続いた。学生は経験者に積極的に質問し、アドバイスを求めていた。
今後のアントレプレナーに必要な知識として、AI に関するレクチャーも実施され、学生たちはこれからのビジネスの基盤となる先進技術に関する学びを得た










Photos by Joseph Spiteri Photography

学生向けプログラムの裏側では、グローバルパートナーや、同行した各国の教員向けのセッションを実施。NFTE がグローバルでめざすビジョン、アントレプレナーシップ教育をさらに普及させるためにはどんな連携ができるか、教員向けの支援には何が必要か、などが協議された。
WYEC という大会のためのイベントでありながら、世界から集った教育者たち同士の学びの機会、ネットワーキングの機会を提供できるのも、NFTE の強みであ

る。教育者同士、共感することも多く、課題も共通している（教員のマインドセット、学校と保護者の理解、限られた物的・人的リソース、予算など）ため、国を超えて議論が深まった。
日本から参加した YIC 学院に対しても、日本の職業教育、高等教育全般に関わる質問、抱えている課題についての質問があり、共感を呼んだ。





Photos by Joseph Spiteri Photography　　*左上写真のみ報告者撮影

午後は、EM オリンピックと題されたアクティビティを実施。ファシリテーターは NFTE のメンバーが務めた。EM とは Entrepreneur mindset の略。具体的なマインドセットは以下の通り。



学生は、新たな混合チームに分かれ、上記のマインドセットに関するアクティビティに挑戦。







Photos by Joseph Spiteri Photography




Photos by Joseph Spiteri Photography

チーム対抗、ポイント制で行われたアクティビティはNFTEオリジナルで、実際に学校向けのカリキュラムの中で実践されているものも含まれていた。提供された写真から課題を発見し、ペルソナ設定をして課題解決の案を提示する、限られたアイテムでアイデアを具体化する、順番に絵を書き足していって最終的にビジネスアイデアを作り上げるなど、ゲーム性が高いものから、言葉を必要としない「知恵の輪」など、学生が参加しやすい形態のものが多く、どのチームも盛り上がった。

全チームが、全アクティビティを実施しポイントが高いチームが表彰される形式で、メンバーのモチベーションを上げながら、仲間意識が高まるような仕掛けであった。 ほかにも、本日誕生日を迎えた学生を祝う場面など、学びの中にも出会いを楽しみ、お互いを知り合う時間も多く、2 日目、3 日目に向け、学生も、同行する教育者たちも和気あいあいとしたスタートとなった。

イ）②コーチングの日（Coaching）

会場は同じく UBS。今日は午前中～昼過ぎまで、各国のチームごとに 2 名ずつ NFTE がアサインしたコーチ（企業人+NFTE スタッフ）による、チームのピッチ（ビジネスアイデア発表）内容へのフィードバックをもらい、改善できる貴重な一日。いよいよ、これまでの学びの集大成の発表の場へと近づいてきた緊張感があった。







Photos by Joseph Spiteri Photography

どのチームも真剣に第三者の意見に耳を傾け、質問に対応する中で学びを得ている様子だった。ボランティアのコーチも、プレゼンへのアドバイスから、実際に事業化するためのアドバイス、本番に向けた激励など、真摯に向き合っており、その熱意が学生たちにモチベーションと緊張を与えていた。13 チームをサポートするボランティアをコーディネートできるのも、NFTE のネットワークの強みである。

また、学生をサポートする教員たちも、コーチと交流し、アントレプレナーシップ教育やビジネスアイデアを支援する立場からの意見交換がなされており、教員にとっても学びの場であったと言える。



Photos by Joseph Spiteri Photography

ウ）③チャレンジの日（Challenge）前半

いよいよ大会（ピッチ）当日。午前中の準決勝会場は同じく UBS。

朝一番に、全員で朝食を取りながら、今日のながれについて指示がある。ここで、NFTE から学生へのメッセージとして、ここまでの学びについての価値、今日の場でこれまでの頑張り、素晴らしいアイデアを堂々と示すこと、決勝進出できるかどうかだけで測らないこと、決勝に行った仲間を全力で応援すること、などが強調され、皆真剣な面持ちで聞いていた。




Photos by Joseph Spiteri Photography

会場には、昨年度 WYEC2024 に参加した、イスラエルと韓国の学生が自費で駆け付け、ピッチに挑む学生たちを元気づけていた（写真：上右)。
このような関係性が、大会後も続くことに価値がある。彼らは昨年度参加した日本の学生とも交流を続けているとのこと。




Photos by Joseph Spiteri Photography

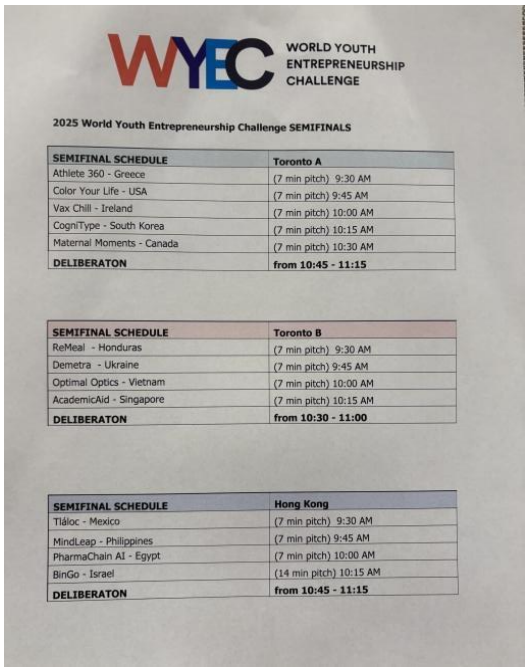
審査員は NFTE が連携している企業・団体等のビジネスパーソンや研究者、起業家家を中心に構成されている。自分のビジネスを譲渡して、セカンドキャリアとして次世代育成に取り組んでいるベテラン起業家もいた。NFTE の大会ではグローバルに共通する評価指標があり、審査員はその基準に則り審査する。



Photos by Joseph Spiteri Photography

準決勝はリーグ戦的に３つの部屋に分かれて実施された。13 チームが４・４・５チームずつに分かれ、各部屋に NFTE のスタッフが時間やルールを管理するために「リーダー」として配置される。各チームで最もスコアが良かったチームが、決勝に進出する。審査員は５－６名で実施。プレゼンテーションは、７分間。７分を超えるとその時話している内容をもって強制終了となる。その後、質疑応答が４分。約２－３名の審査員が質問すると終わってしまう短さ。通訳がいる場合は倍の時間が与えられる。

各チームのビジネスアイデアや、どのチームと一緒の部屋になるかは、公平性やビジネスに関する知財管理の関係から、審査員以外には情報は渡されず、発表順も直前に発表される。当日のスケジュールは以下の通り。



WYEC WORLD YOUTH ENTREPRENEURSHIP CHALLENGE

2025 World Youth Entrepreneurship Challenge SEMIFINALS

SEMIFINAL SCHEDULE	Toronto A
Athlete 360 - Greece	(7 min pitch) 9:30 AM
Color Your Life - USA	(7 min pitch) 9:45 AM
Vax Chill - Ireland	(7 min pitch) 10:00 AM
CogniType - South Korea	(7 min pitch) 10:15 AM
Maternal Moments - Canada	(7 min pitch) 10:30 AM
DELIBERATON	from 10:45 - 11:15

SEMIFINAL SCHEDULE	Toronto B
ReMeal - Honduras	(7 min pitch) 9:30 AM
Demetra - Ukraine	(7 min pitch) 9:45 AM
Optimal Optics - Vietnam	(7 min pitch) 10:00 AM
AcademicAid - Singapore	(7 min pitch) 10:15 AM
DELIBERATON	from 10:30 - 11:00

SEMIFINAL SCHEDULE	Hong Kong
Tláloc - Mexico	(7 min pitch) 9:30 AM
MindLeap - Philippines	(7 min pitch) 9:45 AM
PharmaChain AI - Egypt	(7 min pitch) 10:00 AM
BinGo - Israel	(14 min pitch) 10:15 AM
DELIBERATON	from 10:45 - 11:15

学生たちが持ち寄ったのは、「利益を生む」ことにとどまらず、環境、医療、農業、福祉、テクノロジー、貧困やジェンダー格差など、さまざまな社会課題に挑むビジネスアイデアであり、AI を含む技術の活用も顕著だった。
結果は、以下の３チームが決勝に選出された。NFTE の CEO が発表し、UBS の責任者からの激励、仲間からの声援が送られた。

・Vax Chill （アイルランド）
・Optimal Optics （ベトナム）
・Tláloc（メキシコ）

学生の中には、涙を流し悔しがる姿も見られたが、達成感と次のステップへ期待に満ちた様子であった。



＜学生へのインタビュー＞

インタビュー項目

・WYEC に参加して最も自分に価値があったと思うことは？

・次はどんなキャリアを描いているか？

韓国：

（学生 A）WYEC に参加して、「自分がいかに視野が狭かったか」を知った。韓国では、それなりによい学校でよい成績を修めてきて、自分なりの自信もあったが、自分をチャレンジングな環境に置くことも難しかったが、今回の経験は大きな成長のチャンスだった

（学生 B）自分一人では何もできないこと、違う専門性を持つ人と協働することでビジネスができるんだということを感じた

（学生 C）学んでいる専門分野がどのように社会の役に立つのか、社会実装されるのか、そこまでをイメージできるようになった ここで、全く違う考え方や視点を持つ人たちからたくさん学べた

2.　（学生 A）すでに行きたい大学も決めていたが、今回の経験を通じて、大学卒業を待たずに起業してみたいと感じている



韓国チームと

ベトナム：

WYEC に参加して、多くの人と出会って、自分たちのアイデアを伝える機会をもらえたことがとても良かった。なによりも、世界中に友達ができ、新しい視点や刺激を得られたことがうれしい

アメリカの大学に進学したいと考えている。経済学を学びたい。もともと学びたいことはあったが、今回の経験を通じてより明確になった。

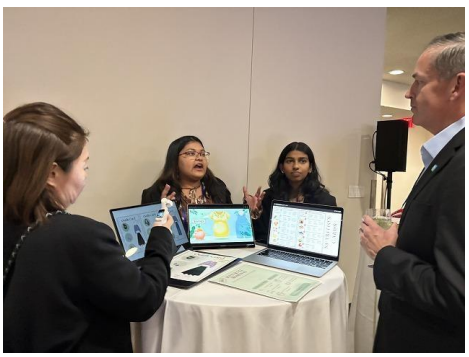
フィリピン：
まず、なによりもニューヨークに来られたこと、多くの出会いそのものが価値。実際にここに来なければ得られない経験。仲間と一緒に協働することの大切さを学んだ。

ウクライナ：
１．自分のビジネスの可能性を世界の多様な人たちに知ってもらえる機会。また、ネットワークも広がり自分の可能性も広がった。
今回はチームとして参加したが、自分は他にもビジネスアイデアを温めていて、すでに検証をしている。大学などとも連携して、事業化に向けて動いていきたい。

エ）③チャレンジの日（Challenge）後半
決勝は、会場を移し、国連施設へ。会場では、決勝進出しないチームも含め全チームが「エキシビション」としてテーブルをデコレーションし、自分たちのビジネスアイデアをアピールした。レセプションに訪れたゲストと名刺交換をしたり、ビジネスへのアドバイスを求めるなど、リラックスした空気と、次に向けてのエネルギーが感じられた。



ベネズエラチーム
フードロス削減のシステム



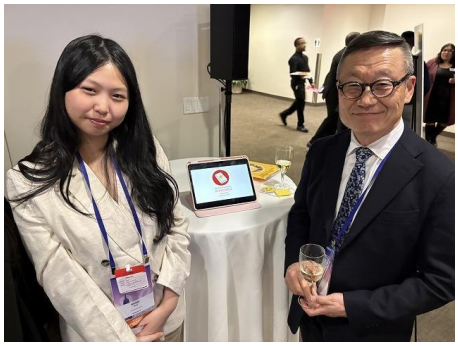
カナダチーム
マタニティウェア循環サービス




アメリカチーム

個人の思い出の写真を「ぬり絵」に変換するサービス（AI 活用）

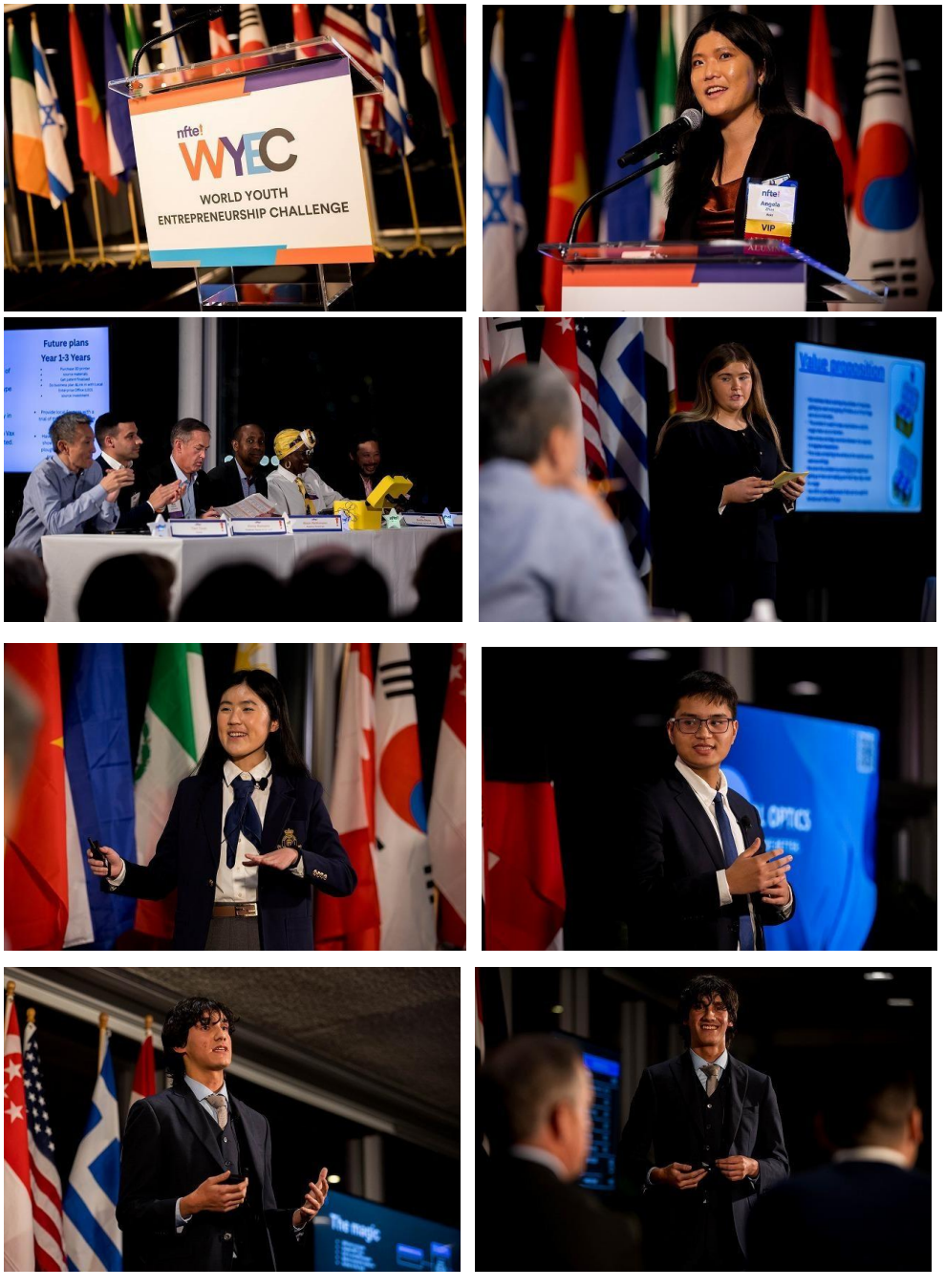
YIC 学院 井本理事長に熱心にアイデアをプレゼンする学生



シンガポールチーム

低価格で家庭教師に学べるオンラインサービス

決勝大会のスタートには、NFTE の CEO J.D. Rock の挨拶、NFTE グローバルチームの挨拶のあと、MC は NFTE 卒業生で起業家にバトンタッチされ、彼女自身の若手起業家としての経験談も交えて進められた。



Photos by Joseph Spiteri Photography

アイルランド、ベトナム、メキシコの順番に発表、６名の審査員が、具体的な課題解決策（プロダクトやシステムなど）や、今後のビジネスの展望などへの質問があった。




Photos by Joseph Spiteri Photography

決勝の審査の間は、今回参加した全チームの代表がステージに上がり自分たちのビジネスの紹介をし、お互いを称えた。





2025 年のチャンピオンに輝いたのは、アイルランドから参加した 16 歳の Carla McDonnell さん。彼女が発表した事業「Vax Chill」は、家畜用ワクチンの冷却・保存に苦労する農村部の畜産農家の課題に向き合ったソリューション。両親が営む農場で育ち、身近でその苦労を見てきたからこその身近な課題感から来るアイデアと、世界的な食糧生産に関する社会的インパクトとビジネスの可能性を訴え、その実効性と展望が評価された。5 優勝賞金は５，０００ドル。応援にかけつけていた父親と、サポートしてきた担任の先生も抱き合って喜んだ。決勝の様子はこちらでも公開されている：https://youtu.be/e6APKskUcWA

オ）アントレプレナーシップ教育と国際的なピッチイベントのインパクト

NFTE のカリキュラムおよびその先の一つ目の「出口」としての WYEC の学生にとってのインパクトは計り知れない。①世界中から集まった背景の異なる仲間との出会い ②「自分たちが世界に価値を生み出すんだ！」という使命感、自己効力感、といったものが立った３日間の観察でもはっきりと見て取れ、これこそがアントレプレナーシップの本質であると感じた。このインパクトは、日

本の学生にとっても人生の糧になることは確実であり、国内だけでは得難い機会である。多様な仲間や一流企業の審査員・コーチによる全く異なる課題意識や解決のロジックに触れ自分の可能性を再発見・再認識し、「世界で通用する価値」を創り出す経験は、グローバルな大会ならではの価値がある。
また、このような機会は教員へのインパクトをもたらす。教員のマインドセットを変えることは容易ではなく、どの国も苦慮している。それでも、世界中の教育者との出会い、同じような想いで次世代育成に取り組む仲間として、学生たちの活躍を間近に見ることは、教員のマインドセットのパラダイムシフトに直接働きかける。実施するカリキュラムの先に、このような世界大会、もしくはそれに代わる「成長実感」「達成感」を得る場を設けることは、学生だけでなく教員に対しても報酬となる。

NFTE ファイナリストが教える４つのヒント

世界中から集った若者たちは、ベテラン CEO のような落ち着きでステージに立ち、未来を左右する地球規模の課題に対し、驚くほど洗練された解決策を提示した。彼らは新世代の「オタク」と呼ぶべき存在だ。一つの問題に深く没頭し、テクノロジーと深い洞察を武器に、情熱を持って現実的なビジネスプランを構築する。このイベントは単なるビジネスコンテストではない。次世代が世界をどう見ているのか、そして私たちが未来について何を学ぶべきかを示す、貴重な羅針盤だった。そこから見えてきた、未来への４つの驚くべきヒントを紹介する。

1．10 代が挑むのは、些細な問題ではなく食糧、水、健康という世界的危機

決勝に進出した若き起業家たちが取り組んでいたのは、決して個人的な悩みや小さな不便の解消ではなかった。食糧安全保障、水不足、公衆衛生という人類が直面する最も根源的で複雑な世界的危機に真正面から挑んでいた。彼らのプロジェクトは、NFTE の CEO が指摘した現代の大きなトレンド「I の活用とサステナビリティへ強いコミットメント」を体現していた。

・VaxChill（アイルランド）

アイルランド代表のカーラ・マクドナルド（16 歳）が開発したのは、家畜用ワクチンの不適切な保管問題を解決するポータブル冷却ボックス「VaxChill」。調査によれば、動物用ワクチンの実に 84%が不適切な温度で保管されている。その結果、ワクチンの効果が減少し、農家は経済的損失を被り、私たちの食のサプライチェーン全体にもリスクをもたらしている。この市場規模は 130 億ドル以上にのぼるという。

・Optimal Optics（ベトナム）

ベトナム代表のチームが提案したのは、近視の進行を抑制するためのウェアラブルデバイス「Optimal Optics」。世界中の 7 億 4000 万人の青少年が近視に悩まされており、彼らはこれを「真の危機」と捉えている。このデバイスは、AI を用いてユーザーの姿勢や視聴距離、照明環境を監視し、近視の進行につながる悪い生活習慣を改善する手助けをする。

・Tláloc（メキシコ）

メキシコ代表のカルロス・モレット（18 歳）が開発したのは、水道管の漏水による水損失を削減するための AI システム「Tláloc」。彼によれば、メキシコシティでは供給される水の 50%が漏水によって失われており、これは「毎秒、オリンピックプール 300 個分に相当する水が 3 度も失われている」という衝撃的な事実を突きつけた。彼の AI は、水圧を最適化することで漏水を防ぎ、エネルギーコストも削減する。

2. 最も「ローテク」なアイデアが優勝。そこには、市場の本質を突く教訓がある。

AI や最先端のセンサー技術を駆使した他の 2 チームに対して、優勝したのは物理的で比較的シンプルなデバイスであるアイルランドの「VaxChill」だった。この意外な結果には、ビジネスと市場の本質を突く重要な教訓が隠されている。彼らが評価したのは、複雑なテクノロジーそのものではなく、「現実世界への即時的な応用可能性」「大規模なスケール展開のポテンシャル」、そして「実現可能性」だった。AI を駆使したシステムは確かに革新的だが、実用化には規制のクリアやインフラの整備等多くのハードルが存在する。VaxChill はすぐにでも市場に投入でき、明確な顧客に直接的な価値を提供できる。

ある審査員は、決定理由を次のように語っている。
VaxChill について私たちが考えたのは、現実世界への応用可能性が非常に高いということですでに準備が整っており、大規模なスケールが見えている。あなたの情熱、そして注ぎ込んできた思慮深さがうかがえる。

この結果が示すのは、イノベーションの本質が技術の複雑さにあるのではなく、明確に定義された問題をいかに定義し、そして迅速に解決できるかにあるということである。

3. 起業家の「個人的な物語」こそが、最強の武器になる。

決勝に残った 3 組のプレゼンテーションには、共通点があった。彼らのプレゼンテーションを単なるビジネスピッチから心を揺さぶる物語へと昇華させたのは、彼ら自身の「個人的な物語」だった。テクノロジーや市場分析だけでなく、自身の体験やアイデンティティと深く結びついた「物語」こそが、プロジェクトに魂を吹き込み、人を惹きつける最強の武器となっていた。

農家の娘

VaxChill を開発したカーラ・マクドナルドは、自身の体験をこう語る。彼女は 16 歳で、人生のほとんどを農場で過ごしてきた。問題を発見したのは、机上のリサーチではなく、日々の暮らしの中だった。VaxChill のアイデアは、家族の農場での経験から生まれました。そこでワクチンを購入する際の問題に気づいたのである。
この言葉には、現場を知る者だけが持つ圧倒的な説得力がある。彼女の物語が、製品の信頼性を何よりも雄弁に物語っていた。

自称「オタク」

メキシコシティの水問題を解決しようとするカルロス・モレットもまた、個人的な体験が原動力だった。彼の住むアパートで 3 日間水が止まった経験が、彼をこの問題へと駆り立てた。彼は自身の情熱と個性を堂々と語った。「自己紹介がてら、ちょっとした秘密を教えましょう。僕はオタクなのです。」
彼の「オタク」としての探究心が、社会を動かすイノベーションの源泉となっている。個人的な物語は、単なる背景説明ではなく、ビジネスそのものの核なのだ。

4. 素晴らしいアイデアだけでは不十分。

この大会を主催したNFTE（Network for Teaching Entrepreneurship）は、年間75,000人以上の学生を対象に、世界29カ国で起業家教育を提供している。さらに、EY、PayPal、Zoraといった世界的な大企業が主要なプレゼンターとして資金やボランティアを提供し、UBSは学生たちのために学習やコーチングの場を提供するなど、産業界が一体となって若者を支援している。このような教育、コミュニティ、そして産業界との連携が、アイデアを現実のビジネスへと昇華させるための土壌となっている。「社会課題 × 若者 × ビジネス」という組み合わせが、理想論ではなく現実的な成果を生み得るという事実のもとで、学生の進路選択の幅を広げるだけでなく、地域課題解決・産学連携・学校の教育的価値向上を同時に実現する有効な一手とする。

5. 教育的インパクト：学生へのキャリア形成やマインドセットに与える影響

1. キャリア形成への具体的な影響

プログラムは、学生が将来の職業を選択し、その道で成功するための強力な基盤となる。

・専門分野への関心の喚起と自信の醸成：

16歳でプログラムに参加した卒業生の事例では、テクノロジーと起業家精神の基礎を学んだことがきっかけで、コンピュータサイエンスを専攻し、フォーチュン500企業でソフトウェアエンジニアやテクニカルプロダクトマネージャーとして活躍するというキャリアに繋がりました。プログラムが「テクノロジー業界でキャリアを築くための自信と勇気を与えてくれた」と述べている。

・実務で使えるスキルの習得:

卒業生は、プログラムで学んだ「ステークホルダーの調整」や「機能のピッチ（提案)」といったフレームワークを、10年以上経った現在でも日々の業務で使用している。

・公的な資格取得：

学生は「起業家精神およびスモールビジネス認定（ESB 認定)」という、世界的に認められた証明書を取得する機会を得られ、これは実社会での学習と成果の貴重な象徴となる。

2. マインドセット（考え方）の変革

NFTE が最も重視していることの一つは、学生に「起業家精神」を植え付けることである。

・グロース・マインドセット（成長思考)：

学生たちは、早い段階でグロース・マインドセットを身につけ、困難に直面しても学び続け、成長しようとする姿勢である。

・失敗に対する強靭さ（レジリエンス)：

プログラムを通じて、「失敗は決して永続的なものではない」という重要な教訓を学び、学生の一人は、「100 回断られても、たった 1 回の『イエス』があればいい」という忍耐強いマインドセットを学んだと語っている。

・「自分はできる」という自信：

多くの学生が、世界中の仲間と切磋琢磨することで「自分を止められない（unstoppable)」と感じるほど、大きな自信を得ている。

3. 社会的責任感と「ケア」の精神

・社会課題への深いコミットメント

プログラムは、単なるビジネス構築に留まらず、他者や世界に対する「深い思いやり（level of care)」を育み、学生たちは、持続可能性、食品廃棄、健康問題などの課題に対し、自らの技術（AI など）を用いて解決しようとする社会志向のマインドセットを形成している。

4. 長期的なネットワークの構築

・グローバルなつながり

プログラムへの参加は、同じ志を持つ世界中の仲間との「生涯続く友情」や「将来のパートナーシップ」のきっかけとなる。ある学生は、11 年前のチームメイトと今でも連絡を取り合い、お互いの結婚式に出席するほどの絆を築いている。

5. 最後に

NFTE のプログラムは単なる起業教育にとどまらず、「生涯役立つ実務的なフレームワーク」「困難を乗り越えるための強固な精神基盤」、そして「社会に貢献しようとする高い志」を学生に授けていることが分かる。

Ⅲ. 視察の成果

１. ネットワークの開拓

グローバルなネットワークアントレプレナーシップ教育を推進においては国内外の多様なステークホルダーとの連携が必要不可欠である。今回は以下のような団体とネットワーク形成ができた。視察中の意見交換のなかで、特にアジアを拠点とする団体同士の学生交流や、アジア版の WYEC の可能性などが協議され、具体的なアイデアなども交換された。また Pearson（Certiport）など、非認知スキルやアントレプレナー・マインドセットの数値化、認定等のサービスを提供するチームからも、日本との連携可能性について打診があった。

＜教育事業者および教育機関＞ ※NFTE グローバルパートナー

・The Global Citizen（シンガポール）※フィリピンやベトナム支援
・Halogen（シンガポール）
・URROUND Inc.（韓国）
・Challenger Consulting(カナダ)
・Western International School Cognia Accredited School(ギリシャ)
・Pearson（世界最大の教育サービス事業者）
・Certiport（Pearson 傘下、認定資格試験の開発、プログラム管理等）

２．YIC 学院のビジョンとの親和性

ア）YIC のカリキュラムにいかせる点

・アントレプレナーシップは一定の分野にとどまらず必要な資質能力（マインドセット）の育成につながるため本来は１コースの１つの科目として導入するのではなく、すべての科目の土台にアントレプレナーシップを据えることが望ましい（図参照）。

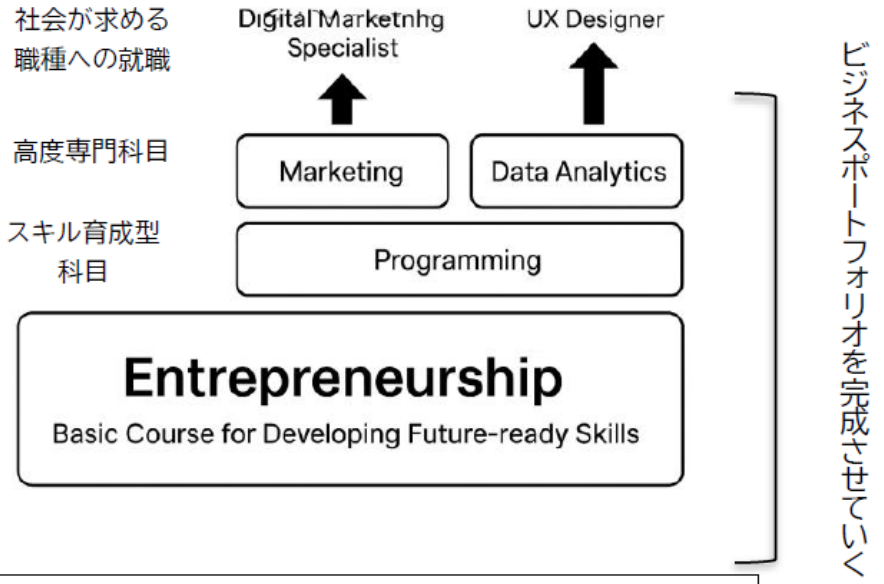


図　アントレプレナーシップをベースとするカリキュラムの組み立て

・学びの「内容（コンテンツ）」が「入門」から「発展（演習）」へと積みあがっていくのではなく、個々がアントレプレナーシップを基礎力とし、その上に必要なスキルを積み上げ、卒業までにビジネスポートフォリオを編み上げていく形式が検討できる

３．今後の検討事項

ア）自校への展開における検討事項

・コマ数の問題：限られた時間でカリキュラムを効果的に実施可能か

・担当教員の問題：教員自身のマインドセットができるか、これまでの教える、知識技能を習得させる、試験に合格させる、意識が未だ強い

・WYEC までを見据えた問題：言語の壁、コスト、物理的距離、国内のビジネスコンテストとの接続

イ）他校（全国）への普及展開

・２０２５年度開発予定のベーシックなカリキュラムは応用可能、ただし、各地域ごとにプロジェクトの「種」となる地域課題や、地元企業のニーズへの対応が必要なため、コーディネーションを担える人材が必要となる

ウ）導入にあたっての課題

・カリキュラムを実施するためのプログラムの導入コスト、研修等の投資が必要となるため、少なくとも３か年の運用計画が必要

・WYEC については、学生や同行者のプログラム参加費は不要だが、渡航費や旅費も高額なため、完全に受益者負担とするのは厳しい可能性

・WYEC 以外にも、カリキュラムの内容・目標に応じ、学生にとって受講後「学びのアウトプット（成果発表）の場」が必要

※Ⅲ－5 にて検討

４．外部連携・参加コンテスト詳細

カリキュラムを支える企業・団体との繋がりと、ターゲットとなるコンテストの一覧（表参照）

表

A. 企業・団体との接続（協力体制）

連携先	概要	カリキュラム連動	備考
山口県中小企業家同友会	創業者、家族内承継の経営者との連携	PBL 入門 / PBL	産学連携協定済み
産業交流スペース Megriba（メグリバ）	ビジネスパーソンの集まり	（記載なし）	特になし

B. 学生コンテスト（アウトプットの場）

コンテスト名	主催	連動時期	スケジュール
地域活性化アイデア コンテスト	全専研	アントレプレナーシップ演習 2年前期（4月～9月）	7月下旬応募 11月下旬発表
全国学生ビジネスアイデア コンテスト	メグリバ	アントレプレナーシップ演習 2年前期（4月～9月）	10月中旬応募 11月下旬発表
世界青年起業家チャレンジ	WYEC	アントレプレナーシップ演習 2年前期（4月～9月）	（記載なし）

５．NFTE カリキュラム展開へのロードマップ

1. カリキュラムの流れ

学生が段階的にスキルを習得し、最終的に「NFTE」や外部コンテストへ挑戦する行程

【フェーズ 1：基礎構築】

時期： 令和 8 年度 1 年後期

科目： アントレプレナーシップ入門（30 時間）

目的： 地域課題解決・地域可能性発掘。

到達目標：

・必要な情報の収集・分析・統合。

・マーケティング視点・デザイン思考の活用。

・自分なりのアイデアを創出できる状態を目指す。

【フェーズ 2：実践・応用】

時期： 令和 9 年度 2 年前期

科目： アントレプレナーシップ演習（60 時間）

内容： 山口県下の中小企業・行政と連携し、彼らの抱える社会課題やサービスに関連する「新たなビジネスアイデア」を提案する。

2. コンテスト挑戦と「NFTE」への選抜プロセス

2 年次の演習成果を外部コンテスト応募、優秀なチームが（NFTE）へ進む。

【全チームの目標】

「全専研 専門学校地域活性化アイディアコンテスト」への応募。

【NFTE への選抜条件】

上記活動において「上位 3 以内」に入ることができるチームについて、NFTE への応募を検討する。

６．まとめ

視察からの学び、成果を踏まえ、以下のようなカリキュラム展開を検討予定：

段階的な育成: 1 年次で「思考法」2 年次で「実践（企業連携）」へ移行

明確なインセンティブ: 「上位 3 チームが NFTE 検討」明確な選抜基準

強固なバックアップ：山口県中小企業家同友会との「産学連携協定」を基盤にした机上の空論ではないリアルな課題解決学習（PBL）を担保

令和 7 年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
地域中小企業と連携による IT 担当者育成・採用促進モデル開発と普及
推進事業

NFTE 世界青年起業家チャレンジ 2025 視察に関する調査報告書

学校法人YIC学院
〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町 2 番 24 号
●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。